



公益社団法人

日本水産資源保護協会

季報

2014年 **夏** 通巻540

第7巻 第2号

CONTENTS

会長挨拶 公益社団法人日本水産資源保護協会会長 川本 省自…………… 3

◆理事會及び總會の概要……………	4	復興水産販路回復アドバイザー活動
◆會議の報告等……………	5	水産資源保護啓発研究事業
水産防疫対策事業		中国向け輸出錦鯉検査
◆事業の紹介……………	9	中国向け輸出活水産物検査（目視検査）
国産水産物流通促進事業		◆お知らせ……………
		22

養殖エコラベル認証取得者の紹介

鹿児島県の福山養殖……………	2
宮崎県の丸栄水産……………	23

マリン・エコラベル・ジャパン認証水産物取扱店の紹介

大阪の『炭味家えびす丸』……………	24
-------------------	----



国産水産物流通促進事業のスーパー等での活動状況

北海道の量販店Rグループの生鮮部会にて集合型研修をおこない、同グループ本部及び各店生鮮担当より70名弱が参加しました。



鹿児島県の福山養殖が 養殖エコラベルの認証を 取得しました

桜島を望む霧島市に位置する福山養殖では、ブリ養殖に適した温暖な気候と、錦江湾の潮通しがよい水深150mの海域で、年間を通じて安定したブリの生産が行われています。また、生け簀の間隔は100mもあり、一般的な養殖場では考えられないほどの広大な水面を漁場として利用しています。

養殖には金網生け簀を使用し、さらに、金網の目を詰まらせる貝類や藻類を食べるイシガキダイを混養させることで、常に生け簀の潮通しを良好に保っています。この方法は『海のアイガモ農法』として注目されています。



認証証書を受ける福山養殖の小林氏（左）
認証証書授与式（6月30日）

生産段階認証

養殖魚種 : ブリ
養殖漁場 : 鹿児島県錦江湾福山地先
養殖方法 : 小割生簀養殖法
認証番号 : JFRCA21406A
認証有効期間 : 2014年7月1日から
2019年6月30日

流通加工段階認証

原材料魚種 : ブリ（生産段階認証番号 JFRCA21406A）
流通加工段階 : ブリの販売、ブリ加工品の製造及び販売
認証番号 : JFRCA21406AA
認証有効期間 : 2014年7月1日から
2019年6月30日



【第2回定時総会】

会長挨拶 (平成26年6月23日)

公益社団法人 日本水産資源保護協会

本日はお忙しい中、会員の皆様には、第2回日本水産資源保護協会定時総会にお集まりいただき、厚くお礼申し上げます。

本日の総会の開催に際して、公務ご多端の中で、水産庁培養殖課長にはご出席いただき有難うございます。

本日は、公益社団法人へ移行し、1年経ちまして、その事業結果などをご審議受ける総会です。

協会の公益社団法人としての定款は、目的の趣旨が従来の「水産資源の維持増大を図り、漁業生産の安定に寄与することを目的とする」から「持続可能な漁業と水産物の食の安全・安心を確立することによって国民生活の向上に寄与することを目的とする」へと変わり、幅広い視野での活動を行っております。

事業の実施状況について簡単に触れますと、水産保護普及活動への支援事業は、各県からの要望を受け、26年度の案件を決定しすでに各県に通知したところです。

養殖衛生事業にあっては従来からの活動を続けております。さらに魚病検査にあっては、従来からの検査に加え、カナダ向け輸出さばの魚病検査受付を25年度後半から開始しており、すでに輸出さばの検査をいくつか実施しております。これらの魚病検査も内外の流通の円滑化にも役立っているものと思っております。

水産エコラベル認証事業の審査では、生産段階で認証されたのは昨年度1業種増え、20業種となりました。流通加工段階の認証は、70社となりました。一方、MEL ジャパン製品を取り扱っている小売店は、水産物小売店の約2.5%に当たる500店舗となっております。先月に入り、大阪市内にあります居酒屋が、居酒屋として全国4番目のMEL ジャパン製品取扱登録店となりました。26年度にはさらに審査案件が増えることを期待しております。

また、FAOの養殖についての技術的ガイドラインに基づく、日本の組織による養殖エコラベル制度が本年2月に立ち上げられました。当協会は認証機関に応募したところ、当協会が認証機関として認められましたので、今後、養殖エコラベルの認証審査にも携わっていくことになりました。

25年度から国が進めております国産水産物流通促進事業は26年度はさらに内容が充実されており、引き続き取り組むこととなりました。

皆様には引き続き当協会の事業に対しご理解・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

第2回定時総会

1. 開会の日時：平成26年6月23日(月) 15:00～
2. 場所：東京都千代田区内神田1丁目1番12号
コープビル6階第3会議室
3. 開会及び挨拶
総務部長が開会を宣し、川本会長から挨拶があった。
来賓より、保科正樹 水産庁増殖推進部栽培養殖課長から挨拶があった。
4. 出席正会員数の報告
事務局から正会員数226であり、出席正会員数37、委任状提出正会員数145、合計182で定款に定める定足数(114)を満たしており、総会が有効に成立している旨を報告した。
5. 議事の概要
 - (1) 議長着席
事務局が定款第15条の規定により議長は会長が務めることを述べ、川本会長が議長席に着いた。
 - (2) 議事録署名人の選出
議長が、次の2氏を議事録署名人として指名し、会場異議なく了承された。
公益社団法人 全国漁港漁場協会 田中潤兒氏
公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構 松本憲二氏
 - (3) 議案
 - ア 第1号議案 平成25年度事業報告及び決算報告の件
議長が、「第1号議案 平成25年度事業報告及び決算報告の件」を上程。下村専務理事より説明がなされた。
議長が監事に監査報告を求めたところ市村隆紀監事から、監査方法の概要及び監査意見として、事業報告は法人の状況を正しく示しているものと認めること、理事の職務の執行に関する不正の行為、法令若しくは定款に違反す

る重要な事実は認められないこと、計算書類及び付属明細書並びに財産目録は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める旨の監査報告があった。

第1号議案について諮ったところ、全会一致で承認された。

イ 第2号議案 平成27年度会費賦課額及び徴収方法決定の件

議長が、「第2号議案 平成27年度会費賦課額及び徴収方法決定の件」を上程。下村専務理事より説明がなされた。

第2号議案について諮ったところ、全会一致で承認された。

ウ 第3号議案 平成27年度役員報酬決定の件

議長が、「第3号議案 平成27年度役員報酬決定の件」を上程。下村専務理事より説明がなされた。

第3号議案について諮ったところ、全会一致で承認された。

(4) 報告

議長が、事務局に報告事項を求め、下村専務理事が平成26年度事業計画及び収支予算について報告した。

6. 閉会

議長が閉会を宣し、第2回定時総会を終了した。

水産防疫対策事業

平成26年度養殖衛生管理技術者養成 本科基礎
コース研修

日時：平成26年6月16日(月)～6月27日(金)
場所：公益社団法人 日本水産資源保護協会 3F
研修室

平成26年度養殖衛生管理技術者養成 本科基礎コース研修 科目および講師

科 目	時間	氏 名	所 属
魚病学総論	4	小川 和夫	公益財団法人目黒寄生虫館
細菌病	8	中井 敏博	広島大学大学院生物圏科学研究科
	6	山本 淳	鹿児島大学水産学部
ウイルス病	8	佐野 元彦	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科
	4	笠井 久会	北海道大学大学院水産科学研究院
寄生虫病	6	小川 和夫	公益財団法人目黒寄生虫館
	2	良永 知義	東京大学大学院農学生命科学研究科
	2	横山 博	東京大学大学院農学生命科学研究科
真菌病	6	倉田 修	日本獣医生命科学大学
藻類学総論	4	藤田 大介	東京海洋大学大学院海洋科学技術研究科
養殖漁場環境論	2	中西 敬	近畿大学農学部水産学科(非常勤)
食品衛生法	2	井河 和仁	厚生労働省医薬食品局基準審査課
		川越 匡洋	厚生労働省医薬食品局監視安全課
薬事法	1	末谷 桃子	農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課水産安全室
持続的養殖生産確保法	1	猪狩 勝一郎	農林水産省消費・安全局畜水産安全管理課水産安全室
合計時間数		56	

(敬称略)

時間割：

時 限 月 日	1	2	3	4	5	6
	10:00～ 11:00	11:00～ 12:00	13:00～ 14:00	14:00～ 15:00	15:15～ 16:15	16:15～ 17:15
6月16日(月)			魚病学総論 (小川)		魚病学総論 (小川)	
17日(火)	持続的養殖 生産確保法 (猪狩)	薬事法 (末谷)	食品衛生法 (井河)	食品衛生法 (川越)	養殖漁場環境論 (中西)	
18日(水)	寄生虫病 (小川)		寄生虫病 (小川)		寄生虫病 (小川)	
19日(木)	藻類学総論 (藤田)		藻類学総論 (藤田)		細菌病 (中井)	
20日(金)	細菌病 (中井)		細菌病 (中井)		細菌病 (中井)	
23日(月)	寄生虫病 (良永)		寄生虫病 (横山)		ウイルス病 (笠井)	
24日(火)	ウイルス病 (笠井)		細菌病 (山本)		細菌病 (山本)	
25日(水)	細菌病 (山本)		真菌病 (倉田)		真菌病 (倉田)	
26日(木)	真菌病 (倉田)		ウイルス病 (佐野)		ウイルス病 (佐野)	
27日(金)	ウイルス病 (佐野)		ウイルス病 (佐野)			

(敬称略)

受講者：

都道府県	氏名	所属
宮城県	石川 哲郎	宮城県水産技術総合センター気仙沼水産試験場
秋田県	八木澤 優	秋田県水産振興センター
山形県	工藤 創	山形県内水面水産試験場
栃木県	酒井 忠幸	栃木県水産試験場
千葉県	早川 美恵	千葉県水産総合研究センター
神奈川県	小松 仁	一般財団法人神奈川県内水面漁業振興会
新潟県	池田 一恵	新潟県内水面水産試験場
富山県	福西 悠一	富山県農林水産総合技術センター水産研究所
石川県	奥野 充一	石川県水産総合センター
福井県	萩田 光紀	福井県内水面漁業協同組合連合会
岐阜県	後藤 功一	岐阜県水産研究所
静岡県	木南 竜平	静岡県水産技術研究所富士養鱒場
和歌山県	堅田 昌英	和歌山県水産試験場
島根県	吉田 太輔	島根県水産技術センター
高知県	猪原 亮	高知県水産振興部中央漁業指導所
長崎県	竹本 悟郎	長崎県県北振興局商工水産部県北水産業普及指導センター
長崎県	前田 将宏	長崎県五島振興局農林水産部上五島水産業普及指導センター
長崎県 (佐世保市)	富山 愛矢	佐世保市農水商工部水産課水産センター
宮崎県	松井 翔	宮崎県東臼杵農林振興局農政水産企画課
JIRCAS	マーシー・ニコ ル・ワイルダー	独立行政法人国際農林水産業研究センター水産領域
日水資	鳴島 ひかり	公益社団法人日本水産資源保護協会

(敬省略)

平成26年度養殖衛生管理技術者養成 行政コース
研修

日時：平成26年6月16日（月）～6月17日（火）

場所：公益社団法人 日本水産資源保護協会 3F
研修室

時間割ならびに講師：「本科基礎コース研修」と同
時開催

受講者：

都道府県	氏名	所属
東京都	青木 貴志	東京都産業労働局農林水産部水産課
福井県	山田 洋雄	福井県農林水産部水産課
京都府	井上 太郎	京都府水産事務所海のにぎわい課
島根県	金元 保之	島根県農林水産部水産課
岡山県 (倉敷市)	真田 悠司	倉敷市役所文化産業局農林水産部 農林水産課
大分県	菅沼 倫美	大分県農林水産部水産振興課

(敬称略)

～今後の予定～

平成26年度養殖衛生管理技術者養成 本科実習コース研修

【前期】

日時：平成26年8月19日（火）～22日（金）

場所：日本獣医生命科学大学

【後期】

日時：平成26年9月4日（木）～11日（木）

場所：東京海洋大学品川キャンパス

【特論・演習】

日時：平成26年9月10日（水）

場所：目黒寄生虫館

国産水産物流通促進事業

○魚食普及：小学校おさかな学習会の開催

平成25年度実施箇所



★学校給食における水産物利用状況アンケート★

あなたの学校または共同調理場では、魚介類はどこから仕入れていますか。主なものに2つ○をつけて下さい。

1 都道府県学校給食会	241	(53.9%)
2 卸売業者・問屋	176	(39.4%)
3 水産加工及び食品会社	194	(43.4%)
4 漁業協同組合	51	(11.4%)
5 地元の魚屋	99	(22.1%)
6 スーパー	3	(0.7%)
7 その他	17	(3.8%)
(回答者数: 447)		

* 3つ以上選択した者を含む

流促センターが給食会等と魚食普及セミナーを企画

- 酒田市教育委員会(25年度実績)
- 千葉県学校給食、奈良県学校給食会、岡山県学校給食会(26年度計画)

○産地⇔消費地 情報共有



産地の水揚げ情報等が掲載される『水産流通ポータルサイト』を公開



『水産流通ポータルサイト』の産地情報一例

店頭学習会開催店舗募集中！

国産水産物流通促進センターでは店頭学習会開催店舗を募集しています。

- スーパー等が、地魚など新たな魚を取り扱う場合に、産地のプロを派遣
- 料理方法や売り方などの商品知識を売場担当者向けにアドバイス

講師の例

【山根博信氏】

- ・ 和歌山市に拠点を置く仲卸の代表。「日本鮮魚の達人協会」の理事長
- ・ テレビ東京「ソロモン流」など、多数のメディアにも出演。



【高木仁氏】

- ・ 株式会社鮮魚たかぎ社長 一代で2店舗を出店の実力
- ・ 滋賀県水産物商業協同組合会長



【神谷友成氏】

- ・ 「おさかなマイスター」としてセミナー講師経験豊富
- ・ 名古屋市中心卸売市場本場の中部水産株式会社取締役販売促進部長



平成25年度14社23店舗で開催しました。



バックルームでの販売講習

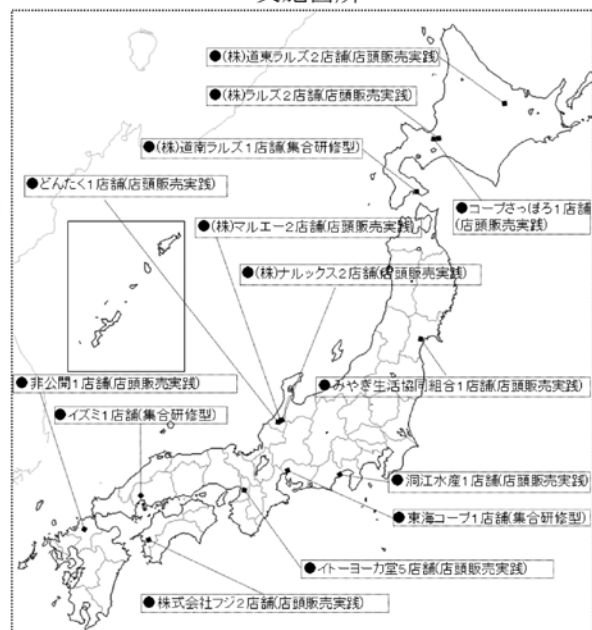


接客術の実践指導



集合研修型

実施箇所



魚食普及等に係る共催事業の共催者を募集しています

魚食普及等に係る共催事業（魚食活動・商談共催事業）として、魚を主体として食育活動を行っている全国各地の組合や団体等と共催することにより、幅広く活動の支援を行います。

本取り組みに係る費用のうち補助対象と認められるもの（講師旅費、講師手当、会場借料等）については、当センターが負担いたします。

魚食普及イベント等の共催を希望する方は、下記までご連絡ください。

～お問い合わせ先～

国産水産物流通促進センター

（構成機関）公益社団法人日本水産資源保護協会

- ・ ボランティア指導員 担当：井上・遠藤
- ・ 店頭学習会 担当：鳴島・藤田
- ・ 魚食普及に係る共催事業 担当：山口・遠藤

TEL：03-6680-4277

FAX：03-6680-4128

e-mail：ryu-jfrca@mbr.sphere.ne.jp

復興水産販路回復アドバイザー活動

趣旨

東日本大震災からの復興状況については、生産能力が回復しつつある（施設の復旧）一方で、売上げの回復が遅れている傾向にあり、特に小規模な加工業者ほどこの傾向が強くなっています。また、多くの加工業者が「販路確保」を課題として挙げており、風評被害が解消されても、被災後3年以上が経過する中で、従前の販路を回復することは非常に困難だという実態が浮き彫りとなっています。

これにより新規商品開発・新規販路開拓に向けた取り組みが不可欠であり、市町村によるイベント開催・共同事業にとどまらない個社の新商品開発や新規販路開拓に向けた取り組みを進めるとともに、中小企業施策とのさらなる連携を目指しています。

○平成26年6月25日、東北の水産物に詳しく、商品開発や販路開拓のノウハウに長けた人材を「復興水産販路回復アドバイザー」に任命し、アドバイザーグループを立ち上げました。

アドバイザー（敬称略）		
○ 鳥巢 研二 （(株)キースタッフ代表取締役）	○ 稲葉 潤一 （(株)ローソン 商品・物流本部 ナチュラルローソン商品部シニアマネージャー）	○ 伊藤 順 （(株)キースタッフ取締役企画開発部長）
○ カ丸 新吾 （オイシックス(株) 商品開発部長）	○ 加藤 哲也 （(財)21 あおもり産業総合支援センター 地域力連携拠点応援コーディネーター）	○ 小谷 あゆみ （フリーアナウンサー）
○ 細川 良範 （(有)フード・サポート 代表取締役社長）	○ 近藤 裕司 （マルハニチロ(株)冷凍食品ユニット業務用 食品部外食・給食課長）	○ 鈴木 裕己 （(株)プロ・スパー代表取締役）
○ 雨宮 隆一 （(株)三越伊勢丹 食品統括部 食品第一商品部生鮮バイヤー）	○ 佐藤 香織 （マルヒ食品(株)常務取締役）	○ 尾坂 康 （青森県水産業改良普及員OB） （平成26年6月現在）

「復興水産販路回復アドバイザー」とは、東日本大震災の被災地における水産加工業者の新規商品開発・販路回復・販路開拓に係る指導を行う指導員のことです。

水産資源保護啓発研究事業

平成26年度の巡回教室・コンサルタント派遣・ブロック研修における講師派遣事業の認定、および平成26年度漁村研究実践活動の認定を決定致しましたのでお知らせ致します。

平成26年度 巡回教室・コンサルタント派遣事業認定一覧表

	都道府県	区別	開催場所	派遣希望専門家		課題
2	青森	巡回教室	十和田市	齋藤寿彦	(独)水産総合研究センター北海道区水産研究所 さけます資源部	さけ資源の変動要因について
		コンサルタント	東津軽郡外ヶ浜町	山口幸隆	株式会社やま幸	クロマグロ流通における衛生管理
3	岩手	巡回教室	久慈市	赤池章一	北海道立函館水産試験場	寒流系のナマコ資源管理・放流技術について
				菊谷尚久	青森県産業技術センター水産総合研究所	
5	秋田	コンサルタント	男鹿市	牧野光琢	(独)水産総合研究センター中央水産研究所	底魚水産資源の持続的利用を目指した漁業管理の検討
		コンサルタント	男鹿市	藤原邦浩	(独)水産総合研究センター日本海区水産研究所	底魚水産資源の持続的利用を目指した混獲回避漁具の開発・普及
6	山形	巡回教室	鶴岡市	根岸進	(公財)山形県企業振興公社生産改善アドバイザー	・種苗生産・養殖現場での「品質管理」による効率的生産 ・生産改善と職場環境向上のための意識高上
		コンサルタント	鶴岡市	鈴木重則	(独)水産総合研究センター南伊豆栽培漁業センター	トラフグの蓄養方法等について(仮)
7	福島	ブロック研修会(平成26年度東北・北海道内水面魚類防疫地域合同検討会)	福島市	間野伸宏	日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科	魚類の生体防御機構の解明とその応用

	都道府県	区 別	開催場所	派遣希望専門家		課 題
8	茨城	コンサル タント	東茨城郡 茨城町	佐藤慎一	東北大学総合学術博物館	ヤマトシジミ漁場に大量発生したヌマコダキガイの生態・分類・対応について
9	栃木	巡回教室	宇都宮市	間野伸宏	日本大学生物資源科学部 海洋生物資源科学科	(仮) 河川におけるアユのエドワジエラ・イクタルリ感染症
13	東京	ブロック 研修会(全 国湖沼河 川アユ資 源研究部 会)	港区	大竹二雄	東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究セン ター	耳石微量元素、安定同位体解析よりみたアユの資源変動メカニズム
15	新潟	コンサル タント	魚沼市 または 長岡市	谷口順彦	福山大学生命工学部海洋 生物科学科	天然アユに依存するアユ資源管理の重要性について
		ブロック 研修会(ア ユ種苗生 産技術連 絡会議)	港区南青 山	谷口順彦	福山大学生命工学部海洋 生物科学科	アユ漁業の振興を前提に多様なニーズに対応できるアユ種苗生産技術向上に関する研修
17	石川	巡回教室	珠洲市	上田祐司	(独) 水産総合研究セン ター日本海区水産研究所	ズワイガニについて
		巡回教室	金沢市	石黒徳広	石川県土地改良事業団体 連合会	水田を活用したフナ、ドジョウの増殖手法について
18	福井	ブロック 研修会(消 費・安全 対策交付 金におけ る東海・ 北陸内水 面地域合 同検討会)	福井市	中井敏博	広島大学大学院生物圏科 学研究科	近年、問題となっているアユの疾病(エドワジエラ・イクタルリ症、シュードモナス症等)について

	都道府県	区 別	開催場所	派遣希望専門家		課 題
19	山梨	ブロック 研修会(第 39回全国 養鱒技術 協議会大 会)	甲府市	前田俊道	水産大学校食品科学科	海水魚における最先端の 鮮度保持技術についての 講義を受けると共に、養 殖マス類における衛生管 理上での活用方法と問題 点についてアドバイスを 受ける。
		ブロック 研修会(全 国湖沼河 川養殖研 究会マス 類資源研 究部会)	東京都内	長谷川功	(独) 水産総合研究セン ター北海道区水産研究所 さけます資源部	近年、国内各地において 定着が確認されているブ ラウントラウトに関し、 在来種への影響や対策事 例について講演していただ く。
		ブロック 研修会(全 国観賞魚 養殖技術 連絡会議)	甲府市	谷口順彦	福山大学生命工学部海洋 生物科学科	会員県による観賞魚養殖 技術に関する最新技術な どの情報連絡と、大学な どで行われている観賞魚 養殖技術に関する研究や 最新のトピックを学ぶこ とにより、観賞魚養殖業 の振興に寄与する。
20	長野	巡回教室	安曇野市	岡崎巧	山梨県水産技術センター	山梨県のワカサギ漁業の 現状と課題
23	愛知	巡回教室	西尾市	鳥羽光晴	千葉県水産総合研究セン ター東京湾漁業研究所	千葉県のアサリ漁業につ いて
28	兵庫	巡回教室	豊岡市	藤原邦浩	(独) 水産総合研究セン ター日本海区水産研究所	日本海西部海域における ハタハタの生態と資源動 向
30	和歌山	巡回教室	西牟婁郡 白浜町	中村智幸	(独) 水産総合研究セン ター増養殖研究所内水面 研究部	良好な河川環境を維持す るための漁協の役割につ いて
31	鳥取	巡回教室	鳥取市	片野修	(独) 水産総合研究セン ター増養殖研究所内水面 研究部	アユの適正な放流密度に ついて
32	島根	コンサル タント	益田市	浜野龍夫	徳島大学総合科学部	水辺の小枝魚道の施工上 の留意点について
34	広島	巡回教室	尾道市	日向野純也	(独) 水産総合研究セン ター増養殖研究所養殖シ ステム部	アサリ天然採苗について
		巡回教室	広島市	河原栄二郎	福山大学生命工学部海洋 生物科学科	河川に流入する物質が魚 類に与える影響について

	都道府県	区 別	開催場所	派遣希望専門家		課 題
39	高知	ブロック 研修会(全 国湖沼河 川養殖研 究会)	高知市	井口恵一朗	長崎大学大学院	内水面における水産増殖 事業に関する科学調査研 究を推進させる
			高知市	谷地森秀二	四国自然史科学研究セン ター長	内水面における水産増殖 事業に関する科学調査研 究を推進させる
			高知市	向井貴彦	岐阜大学地域科学部	内水面における水産増殖 事業に関する科学調査研 究を推進させる
40	福岡	巡回教室	朝倉市	樋下雄一	大分県農林水産研究指導 センター水産研究部	カワウ問題について
42	長崎	巡回教室	島原市	川村嘉応	佐賀県有明水産振興セン ター	ノリの採苗技術と養殖初 期のノリ網管理
		巡回教室	諫早市	宮脇大	愛知県水産試験場漁業生 産研究所	アサリ資源の増大
44	大分	コンサル タント	大分市	山本麻希	長岡技術科学大学工学部	カワウの効果的な防除と 管理の実践
			豊後大野 市			
45	宮崎県	コンサル タント	延岡市	高橋勇夫	たかはし河川生物調査事 務所	アユ資源の回復に組み 組むための指導・助言等
46	鹿児島	巡回教室	鹿児島市	未定	大分県農林水産研究指導 センター	ヒジキの資源管理につい て
計	25都道府県	34案件		37名		

平成26年度漁村研究実践活動交付決定一覧表

府県名	申請団体名	課題名	実施期間
17 石川県	石川県漁業協同組合穴水支所かき部会 部会長 河端 勝男 石川県鳳珠郡穴水町大町口51-1	イワガキ種苗生産の効率化	平成26年7月上旬～ 平成26年11月
23 愛知県	知多のり研究会 代表者 天木 隆雄 愛知県知多郡美浜町大字奥田字南大西50	水温モニタリングによる高水温 下でのノリ育苗安定化試験	平成26年8月～ 平成27年3月
28 兵庫県	浜坂漁業協同組合 代表理事組合長 川越 一男 兵庫県美方郡新温泉町芦屋663-1	垂下式貝類養殖試験	平成26年4月～
44 大分県	大分県漁業協同組合青年部佐賀関支部 支部長 大本 政吏 大分県大分市佐賀関2565-1	くろめの増殖	平成26年4月～ 平成27年3月
4都道 府県		4案件	

中国向け輸出錦鯉検査

平成 26 年 6 月付の農林水産省の通達により、中国の要請に応じた検査を行うことで中国向けに錦鯉を輸出することが可能となりました。

(公社) 日本水産資源保護協会では中国向けの輸出に対応した錦鯉検査を開始しますので、ご活用ください。

◆検査項目と検体、費用について

本検査は、『①細胞検査(コイ春ウイルス血症：SVC、伝染性造血器壊死症：IHN、ウイルス性出血性敗血症：VHS)』、『②コイヘルペスウイルス病：KHV』および『③流行性潰瘍症候群：EUS』の3つの検査を行います。3つの検査を同時に行うためには厳密な水温管理が必要となります。日周変動がある等、水温管理が難しい場合には検査を2回に分けて行うことも可能です。施設の状況によってお選びください。

●同時に行う場合

検査項目	検体	
細胞検査+KHV+EUS	水温18℃で3週間飼育したニシキゴイ6検体(1検体あたり5尾, 計30尾)	
検査経費(税抜)		
当協会会員・会員団体所属者	会員外の漁業者	その他一般(愛好家、企業等)
80,190円	93,524円	94,524円

●2回に分けて行う場合

	検査項目	検体		
1回目	細胞検査+KHV	水温16～18℃で3週間飼育したニシキゴイ6検体(1検体あたり5尾, 計30尾)		
2回目	EUS	水温18～22℃で2週間飼育したニシキゴイ30尾		
検査経費(税抜) ※請求は各検査終了後(2回)になります				
	検査項目	当協会会員 会員団体所属者	会員外の漁業者	その他一般 (愛好家、企業等)
1回目	細胞検査+KHV	76,190円	89,524円	89,524円
2回目	EUS	7,000円	7,000円	7,500円

◆実施方法

当検査は、『特定疾病等対策ガイドライン(平成21年6月)』に準じた検査方法により実施します。

◆申込方法

検査は予約制です。電話で受け付けます。検査は日程の調整が必要となりますので、余裕をもってご連絡下さい。

Tel：03-6680-4277(受託検査担当)

◆検体の準備方法・必要書類

飼育状況により異なりますので、詳しくは当協会ホームページをご覧ください。検査に必要な申込書等をダウンロードしてご記入の上、検体と一緒に送付してください。申込書が無い場合は検査を中止することがあります。

URL : <http://www.fish-jfrca.jp>

◆検査結果

和英文併記の検査結果報告書・結果証明書(正副2通)を発行いたします。

結果提出までは、検査日からおよそ1ヶ月かかります(受付状況等により変わります)。

～受託検査実績～

平成25年度に日本水産資源保護協会で行った受託検査は下記のとおりです。

- ・コイヘルペスウイルス(KHV)PCR検査 131件(650検体)
- ・コイ科魚類特定疾病検査(KHVおよびコイ春ウイルス血症(SVC)) 60件(360検体)
- ・ヒラメのクドアセプトンクタータ検査(種苗PCR検査) 4件(24検体)
- ・マサバの目視検査 2件

中国向け輸出活水産物検査（目視検査）

平成 26 年 8 月 1 日より、中国向けに輸出される活水産物については、「中国向け輸出活水産物の取扱いについて」（平成 26 年 7 月 17 日付、26 消安第 1731 号農林水産省消費・安全局長通知、26 水漁第 441 号水産庁長官通知）に定められた「中国向け輸出活水産物の取扱要領」に従い、当該活水産物に対し輸出証明書の発行を受ける必要があります。詳細につきましては、水産庁ホームページ「中国向け輸出活水産物の取扱いについて」をご覧ください。

（公社）日本水産資源保護協会は、農林水産省水産庁加工流通課長より「中国向け輸出水産物の検査機関」として認定されました（平成 26 年 8 月）。

* 輸出証明書の発行は行っていません。

◆検体について

わが国から中国へ輸出される活水産物（魚類、貝類、甲殻類）が対象となります。1 件につき 3～8 尾（ロットの個体数による）での検査です。詳細についてはお問い合わせください。

◆実施方法

水産庁の「中国向け輸出活水産物の取扱要領」の（別添 2）「中国向け輸出活水産物の検査手順」の「1. 目視検査」に準じた検査方法により実施します。

◆検査経費

		1 件あたりの検査経費（税抜）
1. 検体送付による検査		¥7,500
2. 現地出張による検査*	（日帰り）	¥25,000
	（一泊二日）	¥43,500

* 現地出張による検査は別途交通費（税抜）を加算します

◆申込方法

電話にてお申し込み下さい。

◆検査結果

水産庁「中国向け輸出活水産物の取扱要領」の「中国向け輸出活水産物の目視検査実施報告書」の様式 7 により報告書を発行します。

(公社) 日本水産資源保護協会は以下の規格の認証 (認定) 機関として認められています。

生産情報公表JAS規格：「日本農林規格」(農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律に基づく規格)



食品の生産情報(誰が、どこで、どのように生産したか)を消費者に提供する仕組みとして、「生産情報公表JAS規格」を制定しています。JAS規格制度は、JAS規格を満たしていることを確認した製品にJASマークを付けることができる制度です。

MELJapan：『マリン・エコラベル・ジャパン』(Marine Eco-Label Japan)



FAO(国際連合食糧農業機関：Food and Agriculture Organization of the United Nations)の持続可能な漁業の認証のガイドラインに基づき、ISO認証の仕組みに沿った認証制度です。

AEL：『養殖エコラベル』(Aquaculture Eco-Label)



持続可能な養殖業の発展に資するため、FAOの養殖認証に関する技術的ガイドラインに基づき、ISO認証の仕組みに沿った認証制度です。



● お知らせ ●

「(公社) 日本水産資源保護協会・受託検査について」

当協会では、以下の検査を受託しています。検査の申し込み・詳細は下記までお問い合わせ下さい。

● 検査内容

- ・コイヘルペスウイルス (KHV) PCR 検査
- ・コイ科魚類特定疾病検査 (KHV およびコイ春ウイルス血症 (SVC))
- ・中国向け輸出錦鯉検査
- ・ヒラメのクドア・セブテンブクタータ検査
- ・カナダ向け輸出餌用マサバの目視検査
- ・ロシア向け輸出水産食品魚病検査 (活魚介類検査)
- ・中国向け輸出活水産物検査 (目視検査)

● 検査方法

農林水産省「特定疾病等対策ガイドライン」、国際獣疫事務局 (OIE) 監修の疾病診断マニュアルなどに準拠した方法を用います。検査結果は日本語表記あるいは日英文併記の結果報告書を発行します。

● 受託検査に関するお問い合わせ・資料請求

公益社団法人 日本水産資源保護協会 受託検査担当
TEL：03-6680-4277 FAX：03-6680-4128
E-mail：kensa-jfrca@mbs.sphere.ne.jp
ホームページ：http://www.fish-jfrca.jp/



宮崎県の丸栄水産が 養殖エコラベルの認証を 取得しました

丸栄水産では、カンパチ養殖において一般的な中国での天然採捕による種苗ではなく、国内で飼育された親魚が産卵した卵から得られた種苗を使用しています。国内で生産した種苗を用いることで、養殖場への病気の持ち込みの恐れが無く、天然カンパチに依存しないため、海洋資源に配慮した養殖を行っています。

また、現在のカンパチ養殖の大半がモイストペレット（MP：生餌と配合飼料で成形した飼料）が使用されているなか、丸栄水産ではエクストルーダーペレット（EP：固形飼料を発泡化させ、サプリメントや水分、油脂などを吸収させやすくした飼料）を使用しています。EPはMPに比べて給餌による水中への散逸が少ないため海を汚さず、常温保存が可能で、冷蔵設備も必要が無い「エコな餌」といえます。



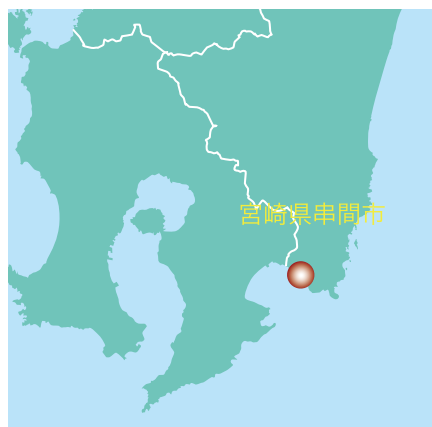
認証証書を受ける丸栄水産の大野氏（右）
認証証書授与式（6月30日）

生産段階認証

養殖魚種 : カンパチ
養殖漁場 : 宮崎県志布志湾鬢垂島地先
養殖方法 : 小割生簀養殖法
認証番号 : JFRCA11406A
認証有効期間 : 2014年7月1日から
2019年6月30日

流通加工段階認証

原材料魚種 : カンパチ（生産段階認証番号 JFRCA11406A）
流通加工段階 : カンパチの販売、カンパチ加工品の製造及び販売
認証番号 : JFRCA11406AA
認証有効期間 : 2014年7月1日から2019年6月30日





大阪の『炭味家えびす丸』が
マリン・エコラベル・ジャパン認証
水産物取扱店として登録されました。



天洋丸船団が漁獲した水産物を販売する
「炭味屋えびす丸」の田中氏



天洋丸船団（橘湾いわし巾着網漁業）
（3月10日、マリン・エコラベル・ジャパ
ン認証取得。季報 2014 年春号にて紹介）



炭味家えびす丸

所在地：大阪市北区梅田 1 丁目 1 番地 3 号-B200
大阪駅前第 3 ビル地下 2F

平成 26 年 8 月 20 日発行

発行——公益社団法人 日本水産資源保護協会

●連絡先
〒104-0044
東京都中央区明石町1-1
東和明石ビル5F
TEL 03(6680)4277
FAX 03(6680)4128
【振替口座】00120-8-57297

企画・編集——公益社団法人 日本水産資源保護協会
制作——株式会社 生物研究社
印刷——株式会社 東京印刷

